

平成27年度 徳島県公共事業評価委員会資料

【森林整備課】

6. 森林基幹道 広岡池ヶ谷線

7. 森林基幹道 檜尾阿佐線

徳島県の森林・林業について

主要指標

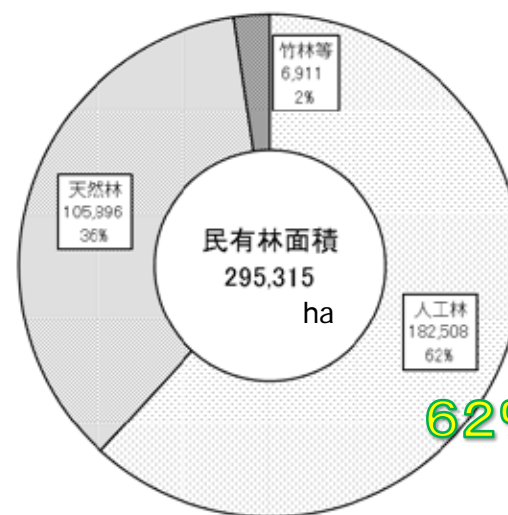


項目	単位	全国	徳島県	順位
総土地面積	千ha	377,972	4,146	36
林野率	%	66.8	75.7	10
森林面積	ha	25,081,390	313,863	29
国有林	ha	7,674,275	18,618	34
民有林	ha	17,407,115	295,245	25
人工林面積	千ha	10,501	191	23
人工林率	%	41	62	8

H27年度版「みどりの要覧」より

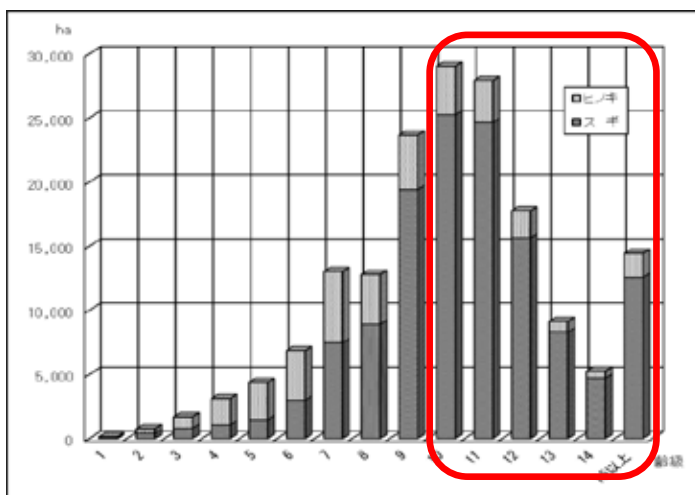
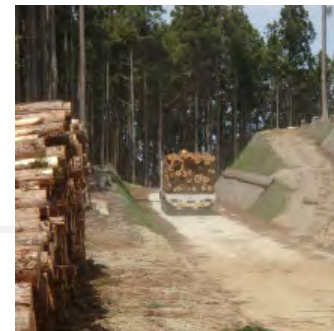


94%が民有林



62%が人工林

林業をとりまく情勢



スギ、ヒノキ人工林齢級構成



人工林面積の61%が
50年生以上
収穫期

県産材の生産量

H16 174千m³

H26 279千m³



H36 **600千m³**に!

県内木材需要量(H26)

592千m³

県産材 269千m³

他県材 152千m³

外材 171千m³



県産材の自給率

H16 22%

H26 51%



参考: 搬出間伐の実施による収支計算例

間伐材売上等収入 17,010円/m³(補助金含む)

生産経費 13,107円/m³

森林所有者への還元 約3千円/m³ 約20万円/ha
(間伐材 70~80m³/haの出材を想定)

林業プロジェクトへの取り組み



林業プロジェクトの展開

林業再生プロジェクト(平成17年度～平成18年度)

「新間伐システム」の構築及び導入
新間伐システムオペレーターの育成
合板用原木の流通・加工体制の整備

林業飛躍プロジェクト(平成19年度～平成22年度)

搬出間伐のさらなる推進
建設業から林業への参入支援
MDF原料への供給

次世代林業プロジェクト(平成23年度～平成26年度)

主伐にも対応した「新林業生産システム」の導入
大型製材工場の誘致・本格稼働
徳島県県産材利用促進条例の制定

主な成果

林業生産分野

県産材生産量 H16:174千m³ H26:279千m³
「新林業生産システム」導入数 50セット
新規林業就業者数 228人

木材加工分野

県産材の自給率 H16:22% H26:51%
県内消費量 H16:54千m³ H26:111千m³
製材JASの認定工場数 15工場

木材利用分野

県外・海外への県産材出荷量
H16:134千m³ H26:168千m³
徳島県県産材利用促進条例 H25.4施行

新次元林業プロジェクトの展開

地方創生の実現に向けて

新次元林業プロジェクト(平成27年度～平成36年度)

主伐から造林、保育までの「森林サイクル」を取り戻し、雇用の創出とともに、森林資源の循環利用による森林・林業を核とした「地方創生」の実現を目指す。

戦略目標

県産材の生産・消費量	H16:17万m ³	➡	H26:28万m ³	➡	H36:60万m ³
新規林業就業者数(累計)	H16:-人	➡	H26:228人	➡	H36:546人

川上 林業生産

- 森林施業 「ウッド・ソリューションセンター」の設置、造林の負担軽減等
- 生産基盤 主伐に対応する「新林業生産システム」の導入、**路網整備の推進**
- 担い手 「とくしま林業アカデミー」の開講、林業就業施策の推進等

川中 木材加工

- 加工体制 増産に対応した「まるごと利用」の加工体制の整備、ブランドの強化等
- 流通体制 原木流通体制の強化、徳島県(津田)木材団地の整備推進等
- 商品開発 オリピックや輸出に対応する商品開発、大経材の商品化等

川下 木材利用

- 県内需要 「木造建築コーディネーター」による公共木造の推進、非住宅での利用推進等
- 木育 「木育広場」、「木造建築学校」の設置による木材利用を進める人材育成
- 県外需要 首都圏、海外への販路拡大、徳島すぎの情報発信等
- 海外輸出

林内路網整備目標

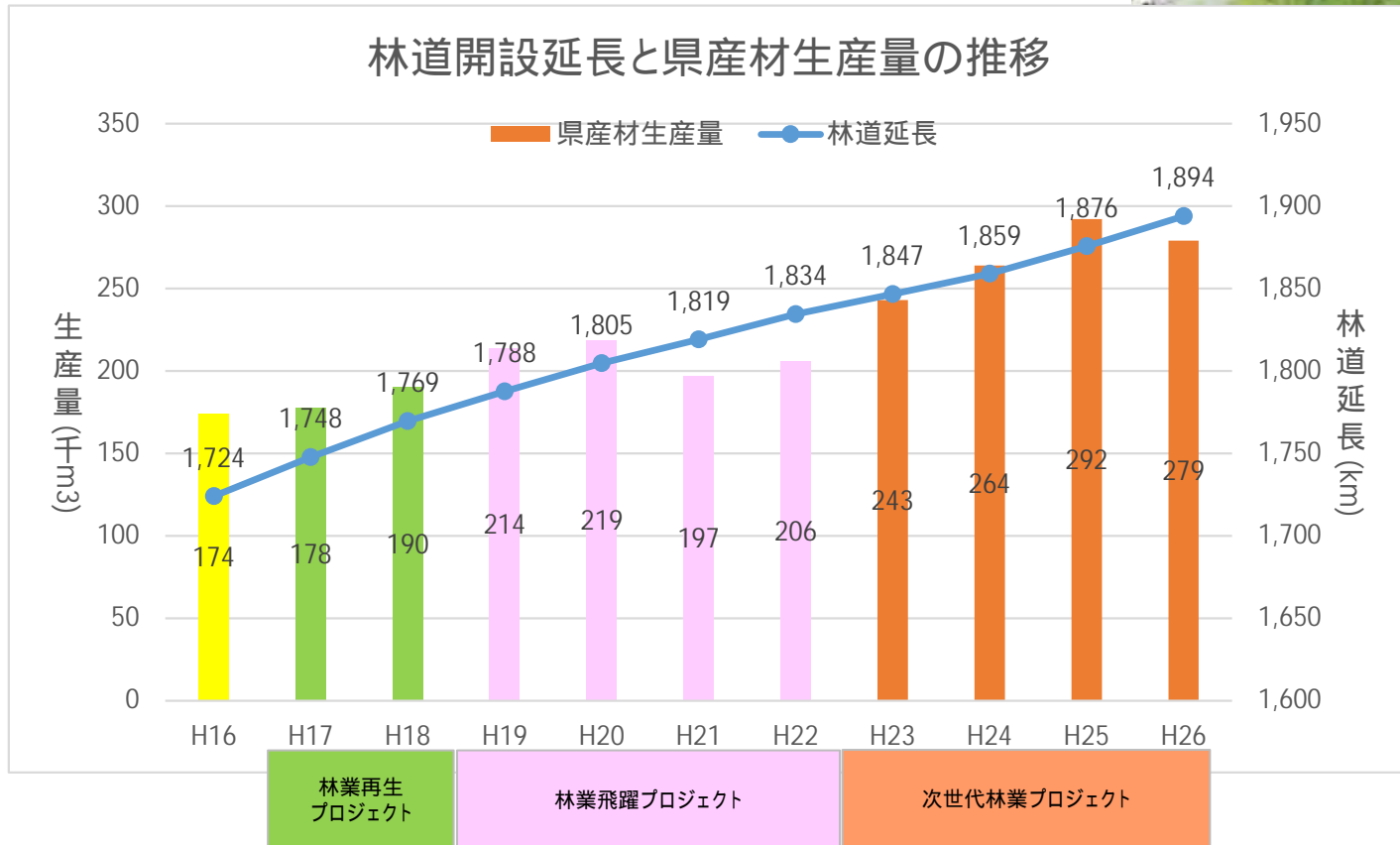
H30年度までに
570kmを整備

年間整備量150km
うち林道15km/年

林道事業が担う役割



林道開設延長と県産材生産量の推移



林道事業が担う役割



高性能林業機械の導入



- ・生産性向上
- ・森林施業の推進
- ・労働条件の改善
- ・安全性の向上



地方創生



地域の生活道として



保健休養
レクリエーション

地域交通
の改善



広がる新たな活用



林道事業の概要

複合路網のイメージ

～ 林道の位置付け～



林道事業の概要

複合路網のイメージ

～ 林道の位置付け～



高性能林業機械による
搬出間伐の実施



森林作業道



森林管理道



森林基幹道



森林基幹道を使い
木材市場まで10トン
トラックで伐木を運搬



平成27年度 徳島県公共事業評価委員会資料

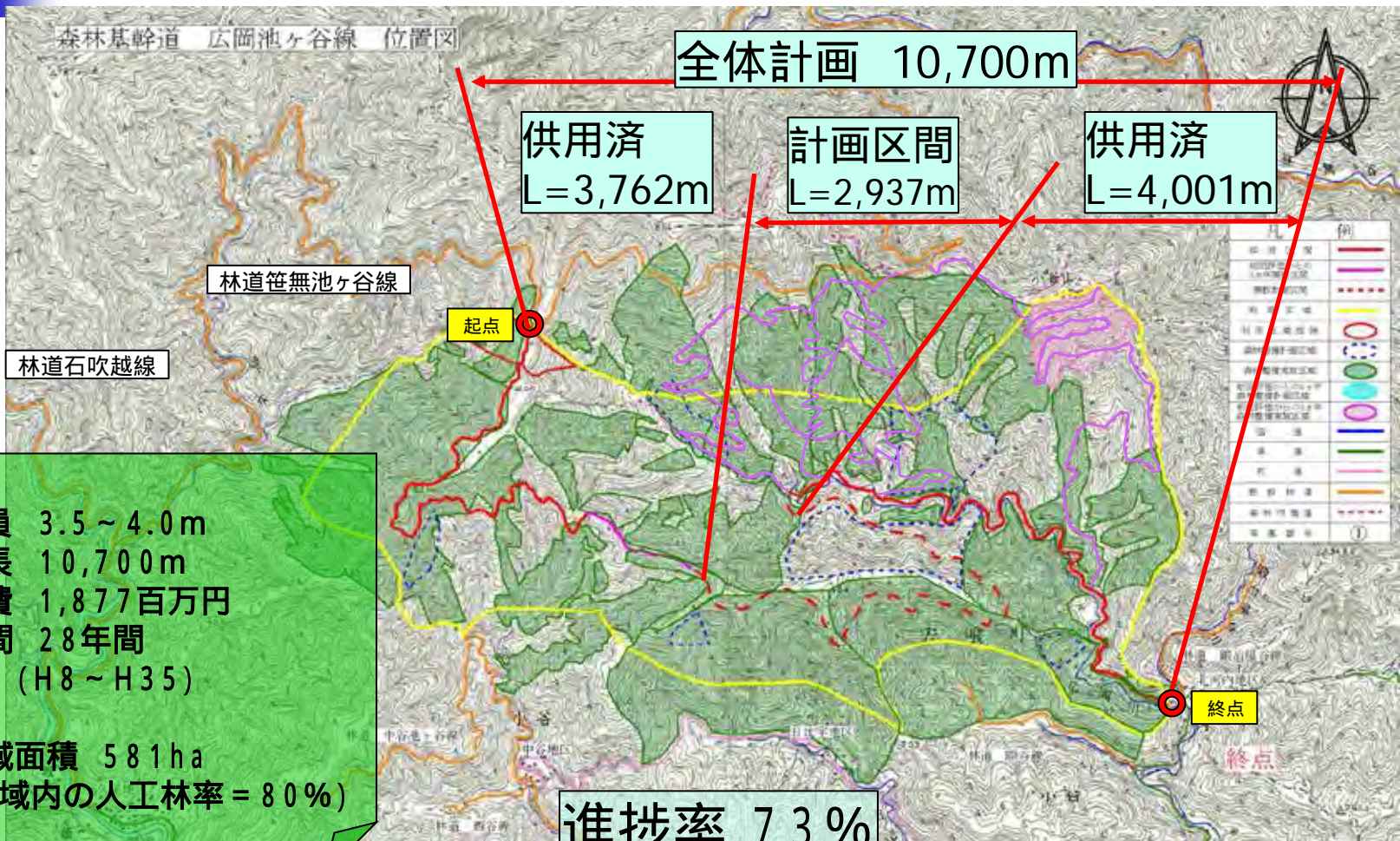
6. 森林基幹道 広岡池ヶ谷線

7. 森林基幹道 檜尾阿佐線

森林基幹道 広岡池ヶ谷線 位置図



広岡池ヶ谷線



森林基幹道 広岡池ヶ谷線 位置図

林道笹無池ヶ谷線

林道石吹越線

起点

終点

終点

幅員 3.5 ~ 4.0 m
延長 10,700 m
総事業費 1,877 百万円
事業期間 28 年間
(H8 ~ H35)

利用区域面積 581 ha
(利用区域内の人工林率 = 80%)

進捗率 73%

森林基幹道 広岡池ヶ谷線 計画遠景



遠景

森林基幹道 広岡池ヶ谷線

起終点状況



起点



終点

森林基幹道 広岡池ヶ谷線

森林整備状況



森林作業道設置状況



搬出間伐の実施状況

整備前



間伐前の森林

整備後



間伐後の森林

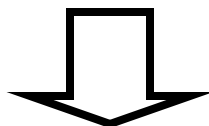
森林基幹道 広岡池ヶ谷線

費用対効果分析

評価期間(68年間) = 事業期間(28年間) + 耐用年数(40年間)

総便益(B) = 33億4,848万2千円

総費用(C) = 26億6,322万7千円



費用対効果指数(B / C) = 1.26



平成27年度 徳島県公共事業評価委員会資料

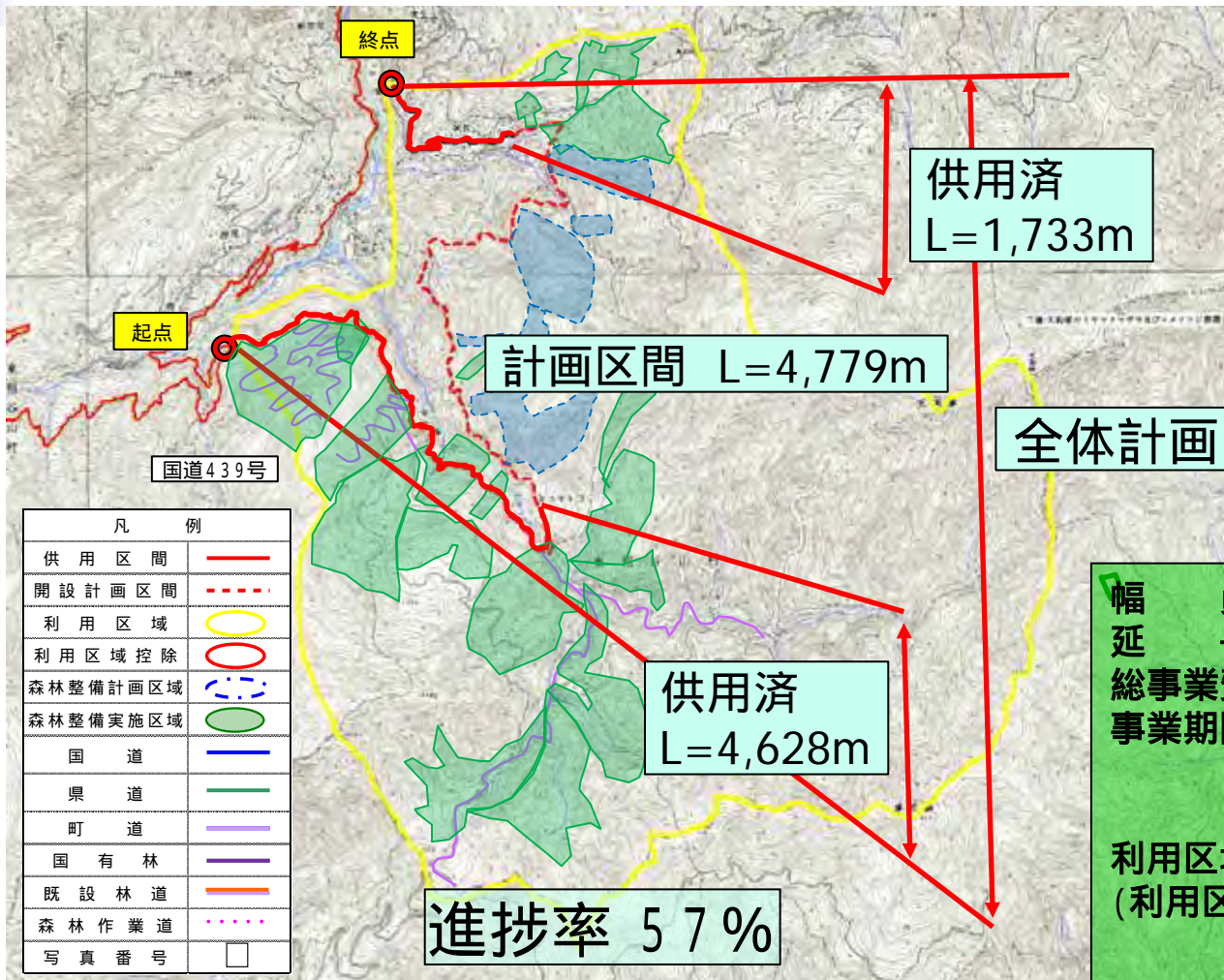
6. 森林基幹道 広岡池ヶ谷線

7. 森林基幹道 檜尾阿佐線

森林基幹道 榎尾阿佐線 位置図



榎尾阿佐線



供用済
L=1,733m

計画区間 L=4,779m

全体計画 11,140m

供用済
L=4,628m

進捗率 57%

凡 例	
供用区間	— (Red solid line)
開設計画区間	- - - (Red dashed line)
利用区域	○ (Yellow outline)
利用区域控除	○ (Red outline)
森林整備計画区域	- - - (Blue dashed line)
森林整備実施区域	● (Green solid fill)
国道	— (Blue solid line)
県道	— (Green solid line)
町道	— (Purple solid line)
国有林	— (Blue dashed line)
既設林道	— (Orange solid line)
森林作業道	⋯ (Pink dotted line)
写真番号	□ (White square)

幅員 3.5 ~ 4.0m
 延長 11,140m
 総事業費 2,222百万円
 事業期間 25年間
 (H18 ~ H42)
 利用区域面積 2,460ha
 (利用区域内の
 人工林率 = 64%)

森林基幹道 檜尾阿佐線

事業地遠景



起点側からの計画地遠景



中間付近の遠景

森林基幹道 檜尾阿佐線

起終点状況



起点(国道439号線より分岐)



終点(林道阿佐名頃線より分岐)

森林基幹道 檜尾阿佐線 森林整備状況



高性能林業機械による搬出間伐



主伐の実施状況



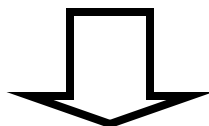
森林基幹道 檜尾阿佐線

費用対効果分析

評価期間(65年間) = 事業期間(25年間) + 耐用年数(40年間)

総便益(B) = 27億2,210万9千円

総費用(C) = 19億1,405万7千円



費用対効果指数(B / C) = 1.42